

ユリ科スズランの日本の南限分布

札幌市 松井 洋

はじめに

奥山 (1982) にはユリ科スズラン属 (*Convallaria* L., コンヴァラリア)、すずらん (別名) きみかげそう *C. keiskei* Miq. の分布図がある (図 1)。

これによると北海道、東北地方の青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県の 6 県、関東地方の栃木県・群馬県・茨城県、中部地方の新潟県・富山県・長野県・山梨県・静岡県・岐阜県にかけて連続的に分布している。これより南西側はややとぎれて近畿地方の奈良県、中国地方の岡山県・広島県、九州地方の鹿児島県に分布していることが読みとれる。

この不連続に分布している自生地で、スズランの南限について諸説があるのに興味をもち調べてみることにした。

スズラン属は 4 種か?

日本の在来種であるスズランの分布を考察するにあたり、よく庭園などに栽培されているドイツスズランとの違いについて触れておくことにする。

大井 (1992) はスズラン属には世界に 4 種が北半球の温帯に分布するという。

この 4 種とは、ヨーロッパ産のドイツスズラン (セイヨウスズラン) *C. majalis* L. (マヤリス)、東アジア産のスズラン (キミカゲソウ、極東スズラン) *C. keiskei*

Miqule (ケイスケイ)、北アメリカ産のアメリカスズラン *C. majuscula* Greene (マユスクラ) (= *C. montana* Raf.)、西アジアのコーカサス (カフカス) 産のコーカサススズラン (和名がないので仮称しておく) *C. transcaucasica* Utkin ex Grossh. (トランスカウカシカ) と考えられる。

ただし、河野 (1996) によるとトランスカウカシカは、現在ではドイツスズランと同一種とみなされているというので、世界のスズラン属は 3 種となる。

北村・村田・小山 (1964) は栽培するドイツスズランは花が大きく、葉の上面が粉白緑色であるが、野生のものは変異が多く、日本のものと明らかな区別はできないという考えで、*C. majalis* L. を用いている。

さらに、Britton & Brown (1970) によるとアメリカスズランに *C. majalis* L. を用いているのでドイツスズランと同一種とみなしている。となると世界のスズラン属は地理的変異はあるものの 1 属 1 種となる。このように、スズラン属は 4 種説から 1 種説まで分類の見解が分かれている種である。

スズランとドイツスズランの違いは花の大きさ、葉の質の他に、大井によると花冠の形、葯・花粉・花糸の基部の色などに違いがある。それらの違いを表 1 にまとめた。著者は野生のドイツスズランを見ていないが、大井、河野の考えに従い日本のスズラ